

神戸新聞読者クラブ

奥さま手帳

毎月、兵庫を再発見。

2024年
3月号
NO.608

レトロにときめく。

習いごとで元気に！



優雅なシャンデリアのカウンター席。

店内で最も古城の雰囲気が漂うのがカウンター席。重厚感のある貴重な石壁や大理石のカウンター、その上にはアンティークのシャンデリアがきらめく。座ってお茶をしていると別世界へ訪れたような気分に。忙しい日常を忘れるひとときを。



ここが
レトロ

美しい装飾の食器やカップ。

凝った装飾のカップをそろえ、お客さんのイメージに合わせて提供。コーヒー500円。自家製のアーモンドバターを使ったアーモンドトーストも人気。ドリンク代にプラス400円。



創業は1979(昭和54)年。現在は2代目店主の森本さんがお母さまと店を切り盛りする。たっぷりの生クリームとバターで味わうプレーンメープルワッフル700円(ドリンクセットはプラス500円)。



ここが
レトロ



ヨーロッパの古城へタイムスリップ。

喫茶アルハンブラ | 姫路市

姫路郊外の住宅地にありながら、扉を開けるとまるで異空間。スペインのアルハンブラ宮殿をイメージした店内は、大理石のカウンターの上にアンティークのシャンデリアが輝き、エレガントな赤いベルベットのイスが並ぶなど、欧風クラシカルな空間が広がる。「ゆっくり流れる時間が心地いい、と遠方からお客さんが訪れてくれます」と店主の森本さん。昔ながらのプリンや手づくりカレーなど純喫茶らしいメニューはもちろん、モーニング文化が盛んな姫路らしく、名物のアーモンドトーストにプリンやサラダが付くモーニングも充実した内容。朝、昼、ティータイムと訪れる時間ごとの楽しみを味わいたい。

▶姫路市田寺東3-27-1

☎079-297-6006

午前7時30分～午後6時30分(モーニングは正午まで) 土曜休 @10台 道案内
／電車→JR神戸線・山陽姫路駅から神姫バス、田寺東口下車徒歩約3分(本数少) 車→姫路バイパス中地ランプから北へ約12分



少し固めの 手づくりプリン。

昭和の喫茶店の味を思い起こさせる昔ながらの固めの食感にファンが多い。卵の濃厚な風味とほろ苦いカラメルソース、そしてホイップとさくらんぼの王道スタイルで、コーヒーとも相性抜群。自家製プリンセットはドリンク代にプラス300円。

ここが
レトロ



懐かしくて新しい レトロ喫茶へ。

インスタントカメラやレコード、純喫茶：スマート化が進む現代社会で、昔を懐かしむ大人から新鮮さにひかれる若者まで幅広い世代から注目を集めるレトロな文化。なかでも人気なのが、唯一無二のノスタルジックな内装やナポリタンなど昔ながらのメニューを守り続ける喫茶店。時代を超えて愛される非日常空間で、ゆったり流れる時間に身をゆだねよう。



撮影／沖本明 香西ジン 南平泰秀 本郷淳三 前田博史
取材文／新谷慶子 野上知子 井鍋横 牧野しのぶ

レトロにとぎめく。

「ナポリタンやカレーなど純喫茶らしいメニューを用意。日・月曜に提供するモーニングも評判です」。西宮市「エスケール」時代から人気の、塩気がきいたもちもち生地のパンケーキ700円。懐かしい名称のミーコー(ミルクコーヒー)600円。



宿場町・国領で純喫茶文化を再現。

純喫茶 国領 こくりょう | 丹波市

かつて宿場町として栄えた春日町国領。その地に、丹波市で「市島製パン研究所」を営む三澤孝夫さんが昨年開いたのが「純喫茶 国領」だ。「今は外食もオートメーション化されて人と人のつながりが希薄な時代。だからこそ人が集い、語らいの場でもある古き良き純喫茶の文化を伝えたくて」。古民家を改装した店内のカウンターで、レコードプレーヤーから流れる曲をBGMに、〈ミーコー〉を飲みながらスタッフやお客さんとの会話を楽しむ。懐かしくて新しい店がまちを元気にする。



▷丹波市春日町国領1135
☎0795-71-1686

土曜の午後5時～午後9時、日曜の午前8時～午後9時、月曜の午前8時～午後6時のみ営業(モーニングは午前11時まで) ◎6台 道案内/電車→JR福知山線黒井駅からタクシー約10分 車→舞鶴若狭自動車道・北近畿豊岡自動車道春日ICから南東へ約6分



かつての宿場町ににぎわいを。

「宿場町だった国領は建物が密集し、歩いて回れるサイゾ感がちょうどいい。純喫茶を開くことで人や店が増えれば、地域の可能性も広がると思う」と三澤さん。厚焼き玉子サンド700円は、ふわふわの玉子焼きとキュウリの食感が絶妙。



1966(昭和41)年に「動く登山道」として登場したカーレーダーが現存するのは、全国でここだけ。「時代を重ねた設備なので丁寧に管理しています」とスタッフの田村将樹さん。



兵庫県唯一の回転喫茶。

喫茶コスモスでは、55分かけてフロアが360度ゆっくり回転する。イスに座りながら須磨のまち、瀬戸内海を見下ろす圧巻のパノラマを楽しめるテーブルはすべて窓際に!

圧巻の絶景、懐かし味のグラスに揺れて。

須磨浦山上遊園 喫茶コスモス | 須磨区

須磨アルプスの鉢伏山と旗振山の頂に広がる山上遊園は、1957(昭和32)年開園。レトロな空気棚引く山上へは、ロープウェイとカーレーダーを乗り継いで。お目当ての喫茶店は、1958(昭和33)年のオープン以来、シンボルとして愛されているピア樽型の回転展望閣の3階にある。1階には昭和の流行歌が流れるジュークボックス。2階にはインベーダーなどが懐かしいゲームコーナー。昭和の人気アイテムが迎える空間は、回転喫茶にたどり着くまでの格好のアプローチに。流れる景色を眺めながら、ゆるりと過ごそう。

▷神戸市須磨区一ノ谷町5-3-2

須磨浦山上遊園 回転展望閣3F ☎078-731-2520

午前10時10分～午後3時30分(ラストオーダー) 火曜休(祝日、春・夏休みは営業。12月上旬～2月上旬の冬季期間は土・日曜、祝日のみ営業) ※喫茶は入場料100円(小学生50円)が必要 ◎市営須磨浦公園駐車場を利用(有料) 道案内/電車→山陽電車須磨浦公園駅からロープウェイで鉢伏山上駅へ車→阪神高速神戸線若宮出口から西へ約10分



クリームソーダ650円をはじめ、ドリンクもフードも昭和なメニューにこだわって。オリジナルのコースターに力強く刻まれた風景は明石市の彫画家・伊藤太一さん作。



太っ腹のモーニングサービス。

ブレンド450円。モーニングサービスは、プラス400円でワッフルなどから選べるパンとオムレツや、ミニデザートが付く豪華セットにもできる。高さ約55センチの特注グラスにアイスクリームやフルーツが盛られた〈matterホルン〉3,500円。



メニューは約200種! 愛されるまちのレストラン。

ブラジル | 垂水区

地元の憩いの場として1973(昭和48)年の創業から親しまれる喫茶店。「内装は創業時とほぼ変わりません」と竹中一成さん。ドリンクの値段のみでトースト半切れとゆで卵、フルーツ、サラダのプレートが付くモーニングサービス、ランチの定食、おつまみやビールなどの宴会メニューまで、どんなシチュエーションにも対応する懐の深さが魅力。まちで愛されながら、今年で50周年を迎える店の歴史はさらに続いていく。

▷神戸市垂水区神田町4-19 ☎078-708-6868 午前8時30分～午後8時(ラストオーダー。モーニングサービスは午前11時ラストオーダー) 無休 ◎なし 道案内/電車→JR神戸線・山陽電車垂水駅から北西へ徒歩約3分 車→第二神明道路高丸出口から南へ約5分





カラコロンランチ2,800円は旬のごちそうを少しずつ。写真は季節野菜のバーニカウダ、ピーツのサラダなどの旬菜プレート、フリットミスト、スープ、デザート盛り合わせ。コーヒーも付く。店にはレコードや昔の電話機もディスプレイ。



席から見える大きな窓の外には、淡河町のどかな畑や山並みが広がる。「景色のいい場所でお店をしたかったんです」と笑顔で迎える鷺尾雅史さん・ますみさん。

絵本のようなお店で、季節のごちそうランチを。

純喫茶カラコロン | 北区

まるで絵本の世界に迷い込んだような緑の中に佇むかわいい建物の店。鷺尾さん夫妻のイラストレーターである娘さん、エレナさんが描いた絵本に登場する「純喫茶」がモチーフだ。純喫茶でありながら、40年以上の経験がある雅史さんが腕をふるうイタリアの家庭料理が評判。看板の「カラコロンランチ」は、神戸市北区「ささやき村農園」の自然農法で育てる野菜を主役にした充実の品々を日替わりで。今日のメニューを楽しみに扉を開こう。

▶神戸市北区淡河町野瀬721-1
☎078-958-0991 午前11時
～午後5時(ランチは午前11時
30分から、予約が望ましい)。喫
茶・軽食は午後1時から提供)
火・金曜休 ⑤5台 [ヌフ松森
医院]から西へ徒歩約9分



手間をかけた
料理と空間で
のんびりと

娘のエレナさんが美術大学の卒業制作で描いた絵本「カラコロン」が建物にそっくりだったために店名に。北野や西区で営んでいたイタリアン「タヴェルナ エレナ」時代からのお客さんも訪れる。



昨年10月に「菓子工房メリーゴーランド」がオープン。「淡河町産の米粉など体にやさしい素材を使って手づくりしています」と店主の市川真以さん。米粉のシュークリーム162円、国産レモンが爽やかなレモンケーキ345円。

新店舗が
仲間入り



元病院跡を里づくりの拠点施設へ。

ヌフ松森医院 | 北区

明治から3代にわたって地域の医療拠点だった松森医院。廃院後は30年以上空き家だった建物を現オーナーの上垣内(かみがいと)賢司さん・愛子さん夫婦が保存・再生のため購入し、地域の人々とともに里づくりの拠点施設として復活させた。1階は食堂や駄菓子店などがある地域交流の場、2階は里山移住のための神戸市による「お試し住居」を開設。「地元のおばあちゃんが女子会を開いたり、子どもたちが駄菓子を買いに訪れたり。自然と人が集まる場へと成長しています」と愛子さん。

▶神戸市北区淡河町野瀬492
☎080-6619-6527
午前10時～午後4時30分 月・火・水曜休 ⑤12台 道案内/電車→神戸電鉄岡場駅から神姫バス、野瀬下車徒歩約2分車→中国自動車道西宮北ICから西へ約15分



懐かしい駄菓子屋も現代の子どもたちにとっては新鮮! 放課後は小銭を握りしめた子どもたちでにぎわう日も。



入口のガラス扉から昭和レトロ感あふれる雰囲気。以前は診察室と薬局だった場所は「淡河デパート食堂」に。[カセットテープ]のランチメニューも充実し、人気は地元野菜を使ったナポリタン750円。5月までは淡河町産のイチゴを使うイチゴパフェ 900円も。昔ながらのパフェグラスが店の雰囲気にピッタリ。

のんびりしたソラ医院長(写真右)としっかり者のミツバ嬢長。肩書きも立派 館内には地域の歴史を感じるアイテムが飾られ、博物館のよう。



レトロな
まちへ



里山に流れる
昭和レトロな時間。





新店舗が
仲間入り

多くが一点物。例えば美しいガラスコップは、お花やボプリを入れたり、アクセサリケースにしたり。使い道の発想がふくらむ。

窓枠、額縁、リメイク家具も。
古いものなら何でも。

古木つね こぎつね

店頭には、とある稲荷神社からやって来たという狛（こま）キツネさん。店内には、古物商として買い取りも行う正人さんが目利きした古い食器、ガラス物、小引き出し、ザルやカゴ、額縁、薬箱などが所狭しと！驚いたのは、食器やコップが並べられたテーブルや水屋のものも、商品だということ。時が止まった気分、何度眺めても新たな発見が。

▶赤穂市坂越2024 ☎090-1240-7461
土・日曜、祝日の午前10時～午後4時のみ営業（平日は暖木で要相談）⑨暖木駐車場を利用



懐かしい絵柄の器や美しいカットングのグラス。「昔、家にあったね」としみじみ眺めるお客さんも。おはじき1個100円。好きな色を思わず探してしまった。



片手にフード、
片手に思い出を持ち帰る。

nonki picnic ノンキピクニック

海がすぐ向こうに見える坂道の終点。地域で長く親しまれた築100年の理髪店の建物で、「ピクニック」をテーマにしたワンハンドフードのお店を週末中心に営業中。[奥藤酒造]のこうじでつくった甘酒のスムージー、坂越のベーカリー[nico]の食パンを使ったサンドイッチ、赤穂の塩で結んだおにぎりなど。眺めの良い海辺でほおばりたい。

▶赤穂市坂越2190 ☎0791-25-5444
月・土・日曜、祝日の午前11時～午後5時のみ営業 ⑨なし



チキンと野菜のわんぱくサンド、出し巻き卵のわさびマヨサンド各380円。マンゴー糍スムージー 750円。イートイン可。



「ゆらぎがあるガラスものも、木材ものも、昔のものは材質が良くて味があります。長く愛され使われてきた物が持つ風合いを、レトロな空間とともに味わって」と橋本愛さん。紡木にはセンスのいい現代の雑貨がずらり。

古い扉の向こうに、新しい出あい。

紡木 つむぎ

こちらも暖木の姉妹店。昭和初期の町家にはめ込まれた洋風の扉、工具や歯車が床に埋め込まれた間口がすてきな雑貨ショップ。1階には作家ものの器やアクセサリ、2階はオーガニック生地や接結生地など、愛さんセレクトの長く身に付けたい心地よい洋服が並ぶ。手づくり感にほっとなごみ、ゆっくりお買い物。

▶赤穂市坂越2061 ☎0791-25-4934 午前11時～午後5時 火・水曜休（祝日は営業）⑨なし



坂越湾へと続く緩やかな坂道を行くと、左に古木つね、右に暖木が仲良く並ぶ。雑貨店にもカフェにもアンティークな道具や家具があふれ、温かい空気感に包まれている。



江戸時代に廻船の北前船が寄港する港町として栄えた赤穂市坂越は、風格ある酒蔵や商家跡、白壁の土蔵が今でも立ち並びノスタルジックな雰囲気の魅力。そのメインストリートである石畳の坂越大道に、築90年の町家を改装した「暖木」が誕生したのは2011年のこと。家具職人の橋本正人さん、坂越で生まれ育った奥さまの愛さんがセンスのいい古道具を配したカフェはたちまち人気店となり、その後、新しい雑貨店やスイーツ店が少しずつ増えた通りは、遠方からも多くの人が訪れる散歩道に。一昨年には暖木の姉妹店となる、古き良き暮らしの道具や家具を集めた「古木つね」も開店。懐かしさとくつろぎを訪ねて、海へと続く坂道を巡ってみたい。

年代物の古道具に
囲まれてカフェタイム。

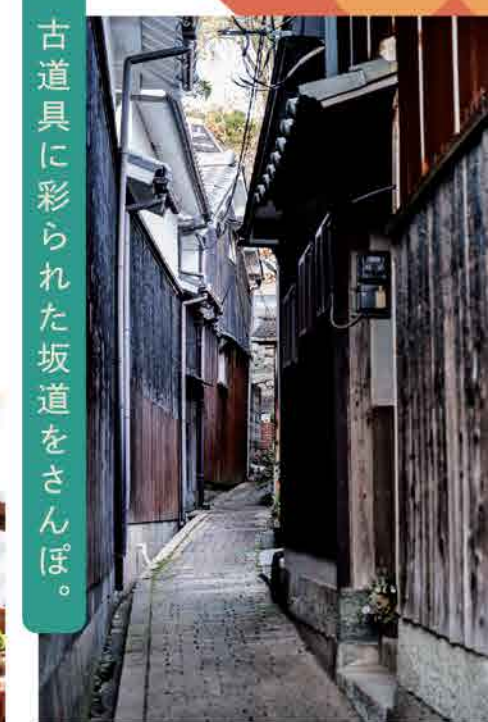
暖木 ノンキ

元下駄屋だった町家を橋本さん自らリノベーション。古い家具や道具を置いた懐かしい店内がくつろげる。看板料理は愛さんのご両親が丹精する野菜や減農薬米でつくる週替わりの一汁多菜定食。取材日はほくほくのクロquetteをメインに副菜3品、有機大豆のみそが香り良い汁物をセット。昼下りのコーヒーとケーキまでゆっくりと。

▶赤穂市坂越2022 ☎0791-25-4622 午前10時～午後6時 火・水曜休（祝日は営業）⑨10台



古道具に彩られた坂道をさんぽ。



一汁多菜定食1,650円。カレーやおむすびセットもある。ホットコーヒー550円。ショーケースに並びイチゴやラムレーズンのチーズケーキは各500円。夏のかき氷も大人気。

坂越の道案内／電車→JR赤穂線坂越駅から東へ徒歩約15～20分 車→山陽自動車道赤穂ICから東へ約15分（観光駐車場あり）



通りには大正末期の銀行跡を活用した「坂越まち並み館」（写真右）、古民家の人気洋菓子店「坂利太（サリータ）」、白壁土蔵の「奥藤酒造」など雰囲気の良い立ち寄り先がたくさん。細い路地もフォトジェニック。





浴槽を囲むタイルは色も形もさまざま。天井付近のお城の風景画やチロリアンテープのようなデザインのタイル画がかわいい。天窓から光が差し込む、昼間の時間帯の入浴も心地良い。

あふれる銭湯愛にどっぷりと。

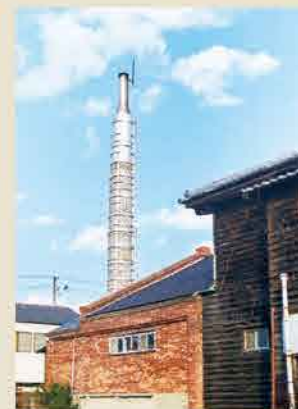
笠松湯 かさまつゆ | 兵庫区

1948(昭和23)年創業の、運南地区で唯一残る銭湯。「お客さんは、湯船が1種類なのもこの個性だと言ってくれます」と3代目の初田浩子さん。「ノエビアスタジアム神戸で試合がある日はサッカーファンでにぎわうことも。初めて訪れる人も楽しんでほしい」とシャンプーや石けんを設置したり、浴室の壁面をギャラリースペースとして活用する。銭湯愛にあふれたサービスや訪れるのが楽しみになるアイデアで歴史をつなぐ。

▷神戸市兵庫区笠松通6-3-6 ☎080-5364-0636
午後4時～午後10時 火曜休 入浴料/大人450円、
中学生160円、小学生60円 ①なし 道案内/電車→地下鉄海岸線和田岬駅から南西へ徒歩約3分 車→阪神高速神戸線柳原ICから南東へ約6分



体が芯から温まる深めの浴槽に浸かると、疲れがほぐれていくよう。熱湯と冷水が別々に出る分離型のカランは、すぐに自分の好きな温度に調整できるのが長所だそう。ヴィッセル神戸の試合がある日は、店主手づくりののれんが登場する。



レンガ造りの建物から、空に向かってのれんが伸びる。山本さんが店頭に掲げれば開店の合図だ。「のれんも季節で変えているので、楽しみに訪れて」。



壁面やタイルに心が躍り、浴槽が男女1つずつという至れり尽くせりじゃないところも心地良い。いつもの石けんとシャンプーを洗面器にコトコト鳴らして、温もりに行く。

レトロを守り続けよう。

心もポカポカ
まちのレトロ銭湯。
SENTO



歴史ある下町の天然温泉。

湊山温泉 みなとやまおんせん | 兵庫区

神戸のまちで80年以上の歴史を持つ名湯で、立って肩まで浸かる壺湯など全浴槽が源泉掛け流し! 2015年に廃業宣言したが、ファンによる署名活動ですぐに再開をした復活ストーリーにも心が温まる。2019年には2階にフリーWi-Fiを完備した[喫泉]がオープン。「ダメになるくらいゆっくりしてください」と阿部 大店長。1階のお湯で温まったら、2階でのんびりと至福の時間を過ごすのがおすすめ。



漫画や絵本もある蔵書約7,000冊の図書館とコワーキングスペースのある[喫泉]。利用者は館内着と大小バスタオル付き。お風呂上がりは長田名物のアップルを。



▷神戸市兵庫区湊山町26-1 ☎078-521-5839
午前5時～午後11時30分(入浴受付は午後11時まで、喫泉受付は午後9時まで) 水曜(祝日の場合翌日)休 入浴料/大人750円(午前5時～午前8時は550円)、小学生230円(土・日曜は100円) 喫泉利用料/大人600円、小学生100円※入浴料は別途必要 ①30台 道案内/電車→各線三宮駅から市バス、平野バス停下車徒歩約5分 車→阪神高速神戸線京橋ICから北西へ約15分



古くは平清盛も入湯したと伝わり、かつては温泉地として栄えたが現在残るのは湊山温泉のみ。屋根上には[喫泉]利用者が入ることができる眺めのいいテラスも。

受け継ぐのは薪焚きの湯と下町人情。

白浜温泉 しらはまおんせん | 姫路市

創業は1957(昭和32)年。銭湯を取り巻く環境は変わった今も、薪で焚くまろやかな湯と女将・山本裕子さんが番台で迎える姿は変わらない。「腰掛け付きの浴槽やマッサージ機が置かれた脱衣所も創業当時と同じ。常連さんにとっては居心地がよく、若い人には「映画のセットみたい」と喜んでもらっています」と笑顔の山本さん。廃業の危機から復活以降は全国から訪れる銭湯ファンも増え、地元客との触れ合いを楽しんでいるそう。人情味あふれる下町風情を感じながら湯船に浸かれば、体も心もぽかぽかと温まる。



▷姫路市白浜町甲840-10 ☎079-245-0375
午後4時30分～午後8時30分 水・日曜休 入浴料/大人490円、小学生以上180円、乳幼児80円 ①なし 道案内/電車→山陽電車白浜の宮駅から南西へ徒歩約9分 車→姫路バイパス姫路東ランプから南西へ約7分



アーガイル柄のモザイクタイルがかわいい浴槽。脱衣所は年季の入った天井扇がくるくる回り、ロッカーには山本さんと友人たちが描く季節の絵手紙も。古き良き昭和が残る空間だ。



時代を物語る
貴重な玩具コレクション。

日本玩具博物館

にほんがんぐはくぶつかん | 姫路市

館長の井上重義さんが全国の郷土玩具、明治からの近代玩具、世界160カ国の人形などを自ら収集。日本に加えて海外までの約9万点を所蔵し、そのうち約6千点を土蔵造りの建物6棟に展示する。公立でなく「私立」で実現したのは、「失われていく郷土の文化を記録し、後世へ守っていかなくては」という強い使命感から。特別展やイベント、玩具で遊べるコーナーも充実。何度も訪ねたい魅力にあふれる。

▶姫路市香寺町中仁野671-3 ☎079-232-4388
午前10時～午後5時 入館料/大人600円、大・高生400円、4歳～中学生200円 水曜休(祝日は開館)
③30台 道案内/電車→JR播但線香島駅から東へ徒歩約15分 車→播但連絡道路船津ランプから西へ約5分



玩具

OMOCILA



昭和の街並みをジオラマで一望。

昭和レトロ情景館 | たつの市

昭和30～40年代の架空のまち〈東龍野町〉の駅前、商店街、里山風景を1/80サイズで克明につくり上げた巨大ジオラマを展示。館長の加瀬康之さんが資料や記憶を元に10数年かけて完成させた大作だ。「昭和を知る人には懐かし、若い人には新鮮に感じてほしい」。ディーゼルカーやSLが走り、幻想的な夕景に染まる演出もあるので、写真を撮ったり、虫眼鏡を借りて眺めたりとゆるりと過ごそう。築200年の建物も見。

▶たつの市龍野町山290 ☎090-9283-1925
午前11時～午後3時(最終入館) 入場料/大人450円、中・小学生250円 月・火曜(祝日の場合翌日)休 ③なし 道案内/電車→JR姫新線本龍野駅から西へ徒歩約20分 車→山陽自動車道龍野ICから北へ約4分



ジオラマ

DIORAMA



店を直した50年前から変わらない懐かしさ。昔のポスターやおもちゃの展示も目を楽しませる。店の一角には、余田さんが大切に保管するブラウン管テレビや真空管ラジオが並ぶお茶の間。昨年(昭和レトロ展)を開催し大好評だったとか。リバイバルが楽しみ。



店頭のおもちゃの目玉、〈今日のおやつセット〉はお得すぎる130円。おみくじ付き! 100円玉で綿菓子がモクモクつくれる専用機も。大きく、丸くできるか子どもと競おう。



昭和の子どもたちの社交場だった駄菓子店。思い出そのものの「余田商店」を訪ねると、あの頃「好きなものを買っていいよ」と言われた時のうれしさ、初めてお小遣いで買物した晴れがましさが心によみがえる。「お子さんはもちろんお父さん、お母さんもテンションが上がります。お菓子を探したり写真を撮ったり、ゆっくり楽しんで」と余田康夫さん。生活雑貨や生鮮食品のよろず屋として明治に創業してから115年。目の前が小学校だったことで次第に駄菓子一本へと舵を切った。「周りの商店街がすたれていく中で、店も時代に合わせた変化を。『懐かしい』と人が来てくれる限り、まちの灯を消さないよう守っていきます」。お向かいの小学校は、実は2年後の統廃合が決定。子どもも元子どもも夢中にするこの素晴らしい文化をいつまでも。無くしたくない、と強く思う。



あの頃のワクワクが
よみがえる駄菓子店。

DAGASHI



通いたい、守りたい。思い出の駄菓子店。

余田商店 よでんしょうてん | 丹波市

信用金庫勤務を経て3年前から駄菓子店に打ち込む康夫さん、典子さん夫妻。康夫さんが調理師免許を生かして土・日曜に焼きたこ焼きはだしがきいて熱々、絶品! 10個330円。



クジ付きガムやキャンデー、ポット入り珍味、プチプラおもちゃ、キラキラアクセまで。よろず屋時代からの年代物の棚に250種以上のお菓子やおもちゃが所狭しと並ぶ。アタリをねらって箱買い、大人買いしたり、店頭の自分でつくれる綿菓子マシン、〈今日のおやつ〉詰め合わせが出てくる自動販売機で遊んだり。ひと休みは昭和40年代のお茶の間で。「お客さんに喜んでもらえるようないろいろ考えています」。レトロな中にさまざまな新しい工夫が。

▶丹波市市島町酒梨200-1 ☎0795-85-0150
午前9時～午後6時 不定休 ③近隣に無料駐車場あり 道案内/電車→JR福知山線市島駅から徒歩約30分、またはタクシー約5分 車→舞鶴若狹自動車道・北近畿豊岡自動車道春日ICから北へ約10分

